



日本子宮内膜症啓発会議

日本子宮内膜症啓発会議  
設立記者会見・セミナー  
2012年5月22日  
報告書

# 設立記者会見・設立記念セミナー 概要

- 日時 2012年 5月22日(火) 17時00分～18時40分(開場 16時30分)
- 会場 東京ステーションコンファレンス605  
(東京都千代田区丸の内1丁目7番12号 サピアタワー6階)
- 出席者 記者30名 議員関係者1名 団体7名 企業8名 計46名

## □ プログラム

TIME	内容
17:00～ 17:05	<b>開会挨拶</b> <b>寺川 直樹</b> 日本子宮内膜症啓発会議 代表顧問/公益財団法人日本生命済生会附属日生病院 院長
17:05～ 17:35	<b>講演1 「子宮内膜症の現状」</b> 現代女性に増えている月経困難症・子宮内膜症の現状について <b>甲賀 かをり</b> 日本子宮内膜症啓発会議 副実行委員長/東京大学医学部産婦人科 助教
17:35～ 18:20	<b>講演2 「子宮内膜症の治療とこれから・日本子宮内膜症啓発会議の意義」</b> 月経困難症・子宮内膜症の治療方法・治療の重要性について 日本子宮内膜症啓発会議について <b>百枝 幹雄</b> 日本子宮内膜症啓発会議 実行委員長/聖路加国際病院女性総合診療部 部長
18:35～ 18:40	<b>閉会挨拶</b> <b>今村 定臣</b> 日本子宮内膜症啓発会議 顧問/社団法人日本医師会 常任理事



□ キャリアブレイン医療介護CBニュース (2012年5月22日)

**月経痛軽く見ず医療機関受診をー 日本子宮内膜症啓発会議**

月経痛や不妊の原因になる子宮内膜症について早期受診を啓発する「日本子宮内膜症啓発会議」が22日、設立の記者会見を開いた。同会議は、3年後までに子宮内膜症などでの産科受診者数を2倍に増やす目標を掲げており、実行委員長を務める百枝幹雄・聖路加国際病院女性総合診療部長は会見で、「特に若い世代の女性に、月経痛を軽く見ず、医療機関を受診すべきと知らせたい」と述べ、目標達成への意気込みを示した。

子宮内膜症は、子宮以外の場所に子宮内膜が発生する疾患で、月経痛や排便痛、性交痛を引き起こすほか、不妊の原因にもなる。また、子宮内膜が卵巣内部にできる「チョコレート嚢胞」が長期化すると、がん化する恐れもあるという。

子宮内膜症を発症する詳しい原因は分かっていないが、月経の回数が多いほど、発症リスクが高まることが知られている。同会議によると、栄養状態が良くなったことで、初経から閉経までの期間が延びている上、出産の時期が遅くなり、回数が少なくなったため、月経の回数は、ここ50年で10倍ほどに増えており、子宮内膜症患者も増加しているという。



「月経痛を軽く見ずに早期の医療機関の受診を」と啓発する百枝幹雄氏(右) (聖路加国際)

※引用掲載  
YAHOO!JAPANニュース(2012年5月23日)  
gooニュース(2012年5月24日)

□ NHKおはよう日本(2012年5月23日)

「避妊薬のピル  
子宮内膜症予防に効果。」

産婦人科医  
“出産数も少なくなっているため  
生理回数増え 子宮内膜症になりやすい。”



□ NHK NEWS WEB(2012年5月23日)

NHK NEWSWEB 2012年(平成24年)5月23日【水曜日】

トップページ > 科学・医療ニュース一覧 > “子宮内膜症の予防 ピルが効果”

**ニュース詳細**

「子宮内膜症の予防 ピルが効果」  
5月23日 08:59

不妊につながると言われている子宮内膜症の予防を広く呼びかけようという会議を産婦人科の医師たちが立ち上げ、「避妊薬のピルが子宮内膜症の予防に効果があることをもっと広めていこう」と訴えました。

全国の産婦人科医およそ70人が集まって立ち上げたのは「日本子宮内膜症啓発会議」で、22日夜、東京で設立を記念する講演会を開きました。

子宮内膜症は子宮の内膜が、卵巣など子宮以外の場所のできる病気で、強い痛みを伴うこともあり、不妊につながると指摘されています。講演会では、産婦人科医が「子宮内膜症は女性の生理が関係していると言われている。今の女性は初潮年齢も若くなり、出産数も少なくなっているため、生理の回数が増え、子宮内膜症になりやすい」と述べました。

そして、「避妊薬のピルを使って生理の回数を減らすことが予防に有効だ。こうした知識を広めるとともに生理痛の人などは早めに婦人科にかかるよう呼びかけていきたい」と訴えました。

会議を立ち上げた聖路加国際病院の百枝幹雄医師は「将来的に妊娠したいという方が、予防をせずに子宮内膜症となってしまうケースが増えている。ピルは避妊薬だが、将来的に不妊を防ぐ効果もあることをもっと知ってほしい」と話していました。



□ NHK あさイチ(2012年5月25日)



東京 千代田区  
今週、火曜日

□ マイライフ手帳@ニュース(2012年5月28日)

マイライフ手帳@ニュース  
http://www.mylifenotes.net/

【ドクター直観】これからの高齢化社会医療  
～糖尿病、生活習慣病、認知症などに関する知識をドクターがアドバイザー～

【6月6日スタート】オンラインセミナーを6月3日にオープンします！

HOME >> 医療関係ニュース >> 日本子宮内膜症啓発会議が設立、27万人の産婦人科のわが子50万人程度は少産症に悩まされる

2012年5月28日

**日本子宮内膜症啓発会議が設立、27万人の産婦人科のわが子50万人程度は少産症に悩まされる**

日本子宮内膜症啓発会議(JECIE)は、女性健康学会・産科婦人科企業・メディアが一体となって、女性の健康や安全のために様々な取り組みを行い、月経不調や子宮内膜症の啓発を推進し、すべての女性が産婦人科へ行けるやいほ健康づくりに貢献することを目的に、4月15日に設立された。5月22日には、JECIEの発足と設立の経緯などを説明する記者会見が行われた。子宮内膜症を予防してもらうことを目的にセミナーが開始された。

「10代後半～40代女性の10人に1人は、子宮内膜症があるといわれている。この疾患は女性はこの世に誕生した時からある病気。JECIEの代表機関である日本産科婦人科学会理事長の櫻井雅彦先生が講師。『この疾患の発症は発症しやすい。月経痛や排便痛や性交痛、不妊につながるなど女性のQOLを下げることに繋がる』と、子宮内膜症はがんになる危険性もある疾患であること、この疾患は、発症率が高くなるに連れてある。そこで、日本でもがんや心臓病と同様に、子宮内膜症の予防に関する研究開発を推進してきたい。産婦人科で『避妊薬のピル』を処方してほしい。産科婦人科が行う治療は、約27万人に存在するといえる子宮内膜症患者のうち、わずか50万人程度は産婦人科を受診していないといわれる。病気を予防している人が大勢いることだ。』

「そこで、産科、企業、メディアが一体となって子宮内膜症を啓発し、啓発と啓蒙を行うことが必要である」とJECIEが設立するに『た』と産科婦人科学会の設立を結び、『多くの人が悩まされている子宮内膜症は発症率が高くなる。女性のQOLを高めるためには、JECIEが先導者としてこの啓蒙である。』



※引用掲載  
livedoor`ニュース(2012年5月28日)

※月経困難症および子宮内膜症の保険承認を有する薬剤はピルではなく、同類の低用量エストロゲン・プロゲステロン配合薬です。ピル(経口避妊薬)を避妊以外で処方すると効能外使用となり、医薬品副作用被害救済精度の対象外となります。